

# TEN

英語教師のための情報誌

Vol. 52  
FALL 2023

TEACHING ENGLISH NOW

特集

## 「目的や場面、状況」を意識した授業づくり

### 巻頭エッセイ

表紙裏 「知りたい」が原動力 平井 伯昌

特集

### 「目的や場面、状況」を意識した授業づくり

- 01 なぜ「目的や場面、状況」が大切なのか 工藤 洋路
- 04 目的や場面、状況などを授業で設定するときのポイント 興津 紀子
- 06 目の前の生徒に合わせて「目的」を考える 宮崎 直哉
- 07 英語を生徒にとって身近なものにするための目的や場面、状況 伊藤 光芳

### 連載

- 08 実践 NEW CROWN 「わたしの授業紹介」 ボンド 良子
- 10 英語教師のための基礎講座 テストの結果を活用する方法 根岸 雅史
- 11 Essay Help Students to Face Learning Challenges as a Team Lucinda Okuyama
- 11 リクツで納得! 学校英文法の「文法」 見えぬけれどもzero冠詞があるんだよ 巨理 陽一
- 12 明日の授業と評価をブラッシュアップするQ&A 津久井 貴之
- 13 TEN通信 教育Webコラムのお知らせ

SANSEIDO

# 「知りたい」が原動力

平井 伯昌 Hirai Norimasa



1963年生まれ。早稲田大学卒業後、東京スイミングセンターに入社。水泳指導者となり、北島康介をはじめ数々の選手をオリンピックに送り出し、メダルを獲得した。その他の主な指導選手は、星奈津美、萩野公介、大橋悠衣。2013年4月、東洋大学法学部准教授、水泳部の監督に就任。17年4月より同教授。

コーチってというのは演じるものじゃない。  
ずっと変わらないというのが、自分だと思っています。

**私**立の中高一貫校に行き、そこで水泳部に入りました。自分は質問する癖がすごくあって、例えば部のルールだったり、「普通はこういうものだ」「当たり前だ」と言われてもピンとこない。最初は、先輩たちには反抗しているように見えたらしいですが、自分からすると「なぜそうなのか」ということが知りたかったんです。自分で考えて納得するということがとても大切だと思っていたんでしょうね。

当時は情報が簡単に手に入るわけではなかったもので、自分で動かないと得られない。本屋に行って海外の水泳雑誌を読んだり、レクチャーを受けに行ったりしていました。もちろん最初は自分が速くなるためでしたが、思い返せば**情報を探して試してみようというところが、コーチの原点**だったなと思います。

**大**学の水泳部で奥野景介選手のマネージャーになり、彼が1984年のロサンゼルスオリンピックに出場しました。**自分の関わっていることが世界に通じるということが、本当に衝撃的で新鮮**でした。大学3年生で就職活動を始めた時も、自分がネクタイを締めて満員

電車に乗っている姿がイメージできなくて、あの時すごく新鮮に感じた道に進めないだろうかと、東京スイミングセンターに入社しました。

**選**手に目標を達成させるというのがコーチの役割の1つなので、選手に嫌われたいと思ってごまかすのではなく、言うべきことは遠慮なく言うようにしています。「客観的に判断する立場にいる」ということは意識しています。

その選手がどんな人間なのかを知ることも大切ですね。みな選手である前に人間なので、選手の中でも悩みがありそうな人から声をかけていくということもしています。

あとは、選手との距離感を自由にとろうと思っています。30歳を過ぎてから、相手との距離の取り方を気にするようになりました。20代のころは選手に近すぎたと思います。お互い年も近いので、選手たちの中にずっと入っているような感じでした。頼りにされるのはいいけれど、「何とかしてくれる」と思われていたんでしょうね。そうなったのは自分に原因があると思って、練習の場面でも丁寧な言葉で

話をしたり、ある程度教え込んだらあとは見守って育つのを待つようになりました。

**先**日60歳になりましたが、それぞれの年代で考えていくことは変わっていくと思います。あの時はできた、今はできないということもあるかもしれないけど、これまで取り組んできたことが積み重なって、今はあの時よりも力をいれなくてできることもある。それは、普段の時とコーチの時とで特別に何か切り替えているわけではなく、**自分にできることを大切に、どこに行っても楽しむようにしてきた**からかなと思います。

**今**後は、もう一度大学に行って運動生理学の勉強をしたいです。**やればやるほど、コーチとして学び足りないものがある**なと思います。これからも、どんどん新しいメソッドや新しい機械が出てきますし、若い人からもいろいろ学びたいですね。50歳の時に東洋大学の教員になりましたが、水泳をやっていると違う道も開けてくるというのがおもしろいなと思っています。



国際大会の直前練習で萩野公介選手と



東洋大学での練習風景



選手に指導をする様子



# 「目的や場面、状況」を意識した授業づくり

学習指導要領では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定して、外国語で表現し伝え合う力を育成することが求められています。

しかし、「目的や場面、状況などを設定するのは難しい」と感じている先生がたも多いのではないのでしょうか。

本特集では、「目的や場面、状況など」を設定することがなぜ重要なのか、工藤洋路先生に解説いただきます。

また、授業を行ううえでどのように「目的や場面、状況など」を意識するとよいのか、興津紀子先生、宮崎直哉先生、伊藤光芳先生に解説いただきます。

01 なぜ「目的や場面、状況」が大切なのか 工藤 洋路

04 目的や場面、状況などを授業で設定するときのポイント 興津 紀子

06 目の前の生徒に合わせて「目的」を考える 宮崎 直哉

07 英語を生徒にとって身近なものにするための目的や場面、状況 伊藤 光芳

## なぜ「目的や場面、状況」が大切なのか

工藤 洋路 (玉川大学)



### 「目的や場面、状況」に応じるとは？

中学校の学習指導要領では、外国語の目標の1つとして、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、(中略)外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う」ことが示されている。「目的や場面、状況など」に応じることをテスト問題(次ページ参照)から考えてみる。

この問題は、2023年4月に中学3年生を対象に実施された「令和5年度全国学力・学習状況調査」の「聞くこと」の問題の1

つである。本調査の『解説資料』(国立教育政策研究所、2023)によると、この問題の出題の趣旨は「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて必要な情報を聞き取ること」であり、評価の観点は「思考・判断・表現」となっている。つまり、「思考・判断・表現」の観点の評価に資する「聞くこと」のテスト問題では、問題を解くというテスト上の目的だけではなく、実際にその音声を聞くとしたら、どのように聞き、そして聞きながら、あるいは聞いた後に何をするかというコミュニケーション上の

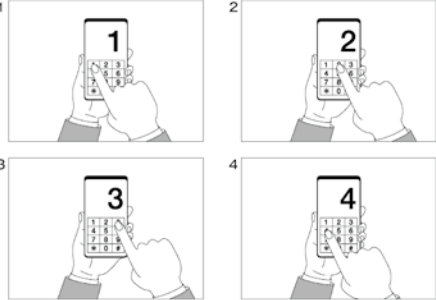
目的を設定する必要がある。加えて、どのような場面や状況でその音声を聞いているかを明示する必要がある。

「思考・判断・表現」は評価の3観点の1つだが、この観点を評価するためには、その前提として、この観点对応する資質・能力である「思考力、判断力、表現力等」を育成する指導を行う必要がある。この問題を評価タスクではなく、指導タスクとして授業内で実施する際は、「目的や場面、状況」を生徒に確認させて、どのように音声を聞けばよいかを共有するとよい。例えば、電話の相手が人間のオペレーターであれば、傘を忘れたという具体的な出来事をこちらから伝えればよいが、自動音声の案内では「傘」という単語(umbrella)を相手が言ってくれるかどうかはわからない。その場合、その語の代わりに、どのような案内が流れてくるかを生徒と一緒に予測する。このように聞く前の準備を行うことで、

徐々に「目的や場面、状況などに応じる」ことの感覚を生徒につかませることができると。そして、このタスクを再利用して、「レストランの開店時間を知りたい時」や「セールをしているお店を知りたい時」といったように、目的を変えて同じ音声聞き、タスクに取り組むことで、さらに「目的や場面、状況などに応じる」ための聞き方に習熟していく。

このように、「目的や場面、状況などに応じる」ための指導は「思考力、判断力、表現力等」の育成には欠かせない。これは、発信型の領域である「話すこと」や「書くこと」の指導においても同様である。例えば、休み時間に先生をドッジボールに誘うタスクを行うとする。その際、例えば、スポーツが得意な英語の先生を誘う場合と、スポーツが苦手なALTの先生を誘う場合と

で、それぞれどのように誘うのが効果的かを考えながら、英語で話す練習をするとい。「話す活動」では「聞き手」、そして「書く活動」では「読み手」をそれぞれ意識して、どのような内容を伝えることが適切かを考えることが大切になる。このように、伝えるべき適切な内容を考える際には、相手の情報などを含む「目的や場面、状況」がより所となる。

<p><b>[テスト問題]</b> あなたは買物からの帰宅後、ショッピングセンターに傘を忘れたことに気が付きました。電話で問合せをしたところ、自動音声案内につながりました。流れてくる音声メッセージを聞き、あなたが選択すべき番号として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。</p>		<p>(スクリプト) This is ABC shopping center. Thank you for calling. How can we help you? If you want to know our opening hours, please choose number 1. If you want to join our shopping club, please choose number 2. If you lost something in our shopping center, please choose number 3. If you have any questions about shops and restaurants in our shopping center, please choose number 4.</p>
---	---	---



## 「目的や場面、状況」の理論的背景

先述した先生をドッジボールに誘うタスクでは「相手を勧誘する」ことがコミュニケーションの目的となるが、この目的は言い換えると言語機能（学習指導要領では「言語の働き」と呼ばれる）である。言語機能にフォーカスしたアプローチとして、Notional-functional Syllabus (Wilkins, 1976) があるが、このアプローチが提唱された1970年代は、意味伝達を重視したCommunicative Language Teaching (CLT) が台頭した時期でもある。学習指導要領の外国語の目標の中には、「コミュニケーション」という表現が何度も現れるが、これは学習指導要領がCLTをベースにしているからであろう。また、学習指導要領では言語の働きの例も列挙されている。コミュニケーション重視の教授法と、言語を用いて何を達成できるかという視点である言語機能は親和性が高いことが、学習指導要領からも見て取れる。

CLTの特徴の1つとしてauthenticなタスクが挙げられるが、このようなタスクは実際の言語使用のシミュレーションであると言えるため、そこには実生活と同じよう

にその言語を使う目的や場面などが存在する必要がある。CLTのこのコンセプトを活かそうとすると、「目的や場面、状況などに応じる」ようなタスク設定が必須となる。

「目的や場面、状況などに応じる」ことは、資質・能力のうちの「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わることは先に述べたが、学習指導要領では「思考力、判断力、表現力等」の内容として、「具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて（後略）」と示されている。これは、英語を使用することを「目的」とするのではなく、「手段」として、設定された課題を解決することを学習目的とするアプローチである。このアプローチはTask-based Language Teaching (TBLT) のコンセプトに類似している。CLTの1つの具体的手法であるとされるTBLTは1990年代から普及してきた外国語教授法であるが、学習指導要領が言語活動中心の授業を推奨しているように捉えられるのは、TBLTの考えも取り入れているからと言える。

さらに2000年代に入ると、Council of

Europe (2001) が *Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)* を刊行したが、CEFRのコンセプトの1つとしてaction-oriented（行動指向型）が挙げられる。これは言語を使ってどのような行動ができるかにフォーカスした考え方である。現行の学習指導要領で示されている領域ごとの言語活動もCEFRを参照して作られたという経緯が、『中学校学習指導要領解説 外国語編』（文部科学省、2017）に記載されている。

このように見ると、現行の学習指導要領は、CLTやTBLTといった外国語教授法のコンセプトや、言語能力の枠組みであるCEFRのコンセプトなどを統合的に組み込むことを試みたものであると言える。コミュニケーションを中心に据えることで、英語を使って何ができるか、また、それによってどのような課題が達成できるかにフォーカスしたアプローチが示されており、そこには「目的や場面、状況などに応じる」ことが関わってくる。「目的や場面、状況などに応じる」という視点で、CLT、TBLT、CEFRを（再度）参照してみるとよいだろう。



## NEW CROWNの言語活動における「目的や場面、状況」

NEW CROWNでは、言語活動のページに活動の設定を確認する箇所がある。これは、「目的や場面、状況」を生徒に意識させるため、例えば2年生Lesson 6 USE Write (pp.98-99)の「お礼のカードを書こう」という言語活動では、「何のために」「何を」「何をする」のかを確認する。

この活動は、中国のおみやげをくれたメイさんに、カードを添えて日本のおみやげをあげるという設定になっている。モデル文は、NEW CROWNの登場人物の花さん

が、手ぬぐいをおみやげに選んでカードを書いたものである。また、USE Writeでは、ライティングのプロセスの各段階において、モデルの書き手が活動で示されている設定をどのように意識しながら書いたかを可視化して、「ひとりごと」という方法で例示している。例えば内容を考える段階では、「花のひとりごと」として、「メイはお茶が好きだから」、そして文章を書く段階では、「実物を見ながら柄の説明を読んでもらえるような英文にしよう」と示されている。さらに、

「読み手」を意識したことがモデル文に反映されている。花さんは手ぬぐいについて、“You can use it as a kitchen towel. You can wrap things in it, too.”と書いており、これはお茶が好きなきょうを意識して、キッチンや食器に関わる内容を入れたからである。

このように、言語活動では「目的や場面、状況」の設定を確認するとともに、活動の各段階で「目的や場面、状況」を意識するための指導をすることが大切になる。



## 「知識及び技能」と「目的や場面、状況」

話したり書いたりする言語活動において、「目的や場面、状況」にフォーカスすると、「どのような内容を伝えるのが適切か」が指導や学習のポイントになる。同様に、聞いたり読んだりする言語活動では、概要や要点、必要な情報を理解するための聞き方や読み方がポイントになる。言い換えれば、「目的や場面、状況」にフォーカスすることで、実際のコミュニケーションのシミュレーションが可能になる。

一方で、実際のコミュニケーションでは、言語の形式に意識を向けることは少ない。日常の場面で、相手がどのような文法事項を使って話しているかを確認しながら聞いている人はほとんどいない。したがって、コミュニケーション重視の指導や学習ばかりを続けると、正確性の向上が困難に

なる。そこで提案された手法がFocus on Form (FonF)である。FonFは、意味のやり取りをする中で言語形式を意識することで、コミュニケーションの成立と正確な言語使用を両立させるための手法である。学習指導要領では、三つの資質・能力の1つである「知識及び技能」の内容で、「言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けること」とあり、これはFonFの概念に類似する記述である。つまり、「知識及び技能」の育成においても、コミュニケーションにつながる指導が必要となることから、「知識及び技能」の学習の際も「目的や場面、状況」を意識する意義が高い。

冒頭で取り上げたテスト問題を指導タスクとして、「知識及び技能」の育成を図る場合、if節に関する知識の学習を目標にすることができる。コミュニケーションの目的や場面、状況の設定がない中で教える場合、「ifは『もし…なら』という意味で、ifのあとは『主語+動詞』が続く」といった説明をすることになる。この方法では、この文法の意味 (meaning) や形 (form) は指導可能だが、文法の理解に必要なもう1つの要素である使い方 (use) の指導がしにくい。「目的や場面、状況」が設定されているこのタスクを用いれば、場合分けをして案内をしているという具体的状況から、場合分けをしたり、条件を提示していくときに、この文法を使うという“use”の指導が可能になる。



## 「目的や場面、状況」の設定の留意点

最後に「目的や場面、状況」が設定された言語活動を実施する際の留意点を2つ述べたい。1つは、言語活動（またはテスト問題）の指示文が長くなることである。その結果、学習者が設定を把握するのに時間を要することになる。より簡潔な指示文の作成を試みるとともに、設定を箇条書きにするなどの工夫が望まれる。もう1つは、架空の設定をすることで、現実味がなくな

ることである。本来は、実際の言語使用をイメージ化し学習に取り組みやすくするために、「目的や場面、状況」を設定する。逆効果にならないように、架空の相手ではなく、実在する学校のALTの先生をコミュニケーションの相手にするなど、学習者にとって現実味のある「目的や場面、状況」を設定する工夫が必要となる。



工藤 洋路

・東京外国語大学外国語学部卒業、  
同大学院博士課程前期・後期修了(学術博士)  
・玉川大学文学部英語教育学科教授

【参考文献】・国立教育政策研究所 (2023) 「令和5年度全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校 英語」(https://www.nier.go.jp/23chousa/pdf/23kaisetsu\_chuu\_eigo.pdf)  
・文部科学省 (2017) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』  
・D. A. Wilkins. (1976). *Notional Syllabuses*. Oxford: Oxford University Press.  
・Council of Europe. (2001). *Common European Framework of Reference for Languages*. Cambridge: Cambridge University Press.



# 目的や場面、状況などを 授業で設定するときのポイント

興津 紀子(宮崎大学)



## 「目的や場面、状況など」を設定することの必要性

以下に示す【タスク1】と【タスク2】には、どのような違いが見られるだろうか。

**タスク1** 自己紹介をしてください。

**タスク2** 初対面の小学校6年生に、自分のことを知ってもらうために自己紹介をしてください。

どちらも「自己紹介をする」という点では同じであるが、【タスク2】には「自分のことを知ってもらう」というコミュニケーションの目的や、「初対面の小学生に自己紹介をする」という場面・状況が示されている。

そのため、このタスクに取り組む際は、聞き手の小学生が理解しやすいように、次の点に配慮して自己紹介をすることが想定される。

- (1) 小学生が知っている簡単な単語や表現を使用する（言語的配慮）
- (2) 小学生が興味をもちそうな話題を選ぶ（内容的配慮）
- (3) ゆっくりはっきり話したり、ジェスチャーや表情で伝えたりして、言語面の理解を補う（非言語的配慮）

現実のコミュニケーションでは、その時々目的や場面、状況などに応じて、自然と適切な内容を考えたり、伝え方や表現を工夫したりしている。教室内の言語活動でも現実のコミュニケーションをイメージできるように、目的や場面、状況などに応じたコミュニケーションを図る機会を提供することが大切である。本稿では、まず小学校の実践を紹介し、その後、中学校の授業で目的や場面、状況などを設定する際のポイントや教科書を使用した例を紹介する。



## 小学校の授業実践から見えるヒント

2つの小学校の指導事例から、中学校でも参考にできそうな工夫を紹介する。どちらも6年生の“My Best Memory”をテーマとした単元の活動である。

### ■発話させたい内容で聞き手を設定する

同じ「思い出を紹介」する活動でも、聞き手を誰に設定するかで期待される発話の内容が異なるため、設定を考える際は注意が必要である。

**小学校A** ほかのクラスの人や先生、ALTに、学校生活で思い出に残っていることを伝えよう。

**小学校B** 他校のALTから、「自分の学校の児童だけでなく、他校の小学生の学校生活の思い出も知りたい。」というメッセージが届きました。思い出に残っていることを話そう。

小学校Aの課題では、聞き手を他学級の児童や担任ではない教員としているため、互いに学校のことはよく知っていて、同じ行事を経験している。聞き手に興味を持って話を聞いてもらうには、自分が感じたことなど、相手の知らない情報を伝えることが求められる。一方、小学校Bの課題

では、思い出を共有していない他校のALTに話すため、まず基本的な情報を伝える必要がある。また、他校との比較となるため、自分たちの学校ならではの学校生活の特徴や魅力を伝えたいという気持ちもうまれるかもしれない。

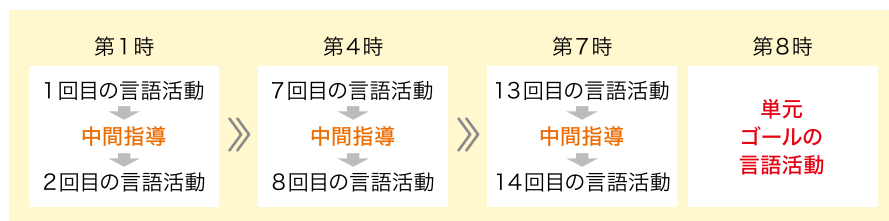
### ■パフォーマンスを磨く機会を与える

2校とも第1時に単元ゴールの言語活動が示され、第8時の本番までに何度も練習する機会が与えられた。クラスメイトや教師からのフィードバック（中間指導）を受けるたびに、相手に伝えたいことは何か、どの表現を使用するかを考えて修正し、再度実践するという過程を通して、パフォーマンスを磨く単元の指導計画となっている。

小学校Aでは、使用できる動詞（went to / saw / enjoyedなど）や単語の一部をSmall Talkで想起させ、動詞や単語の

絵カードを黒板に貼った状態で、タブレット端末で話すことのメモを作成させる。まわりからのフィードバックを受けた後、児童が自分で文の順番を入れ替えたり、単語や表現を加えたりしていた。目的や場面、状況などに応じたパフォーマンスを最後まで自力で追求する児童の姿が見られた。

小学校Bでは、単元の途中で評価基準が示された。その際、aとbの評価基準の違いを理解させるために、改善の必要な点があるJTEのパフォーマンスと、目的や場面、状況に応じた工夫があるALTのモデルを比較させ、その違いを考えさせた。「より詳しく説明する」「問いかけをする」等の聞き手を意識した工夫を2つのパフォーマンスの比較から見だし、よいパフォーマンスのイメージを高める手立てが講じられていた。



## 「目的や場面、状況など」を意識した活動の設定の仕方について、 小学校での指導事例から解説いただきます。



このように、中学校でも発表の場を1度きりのチャンスにするのではなく、フィードバックの機会を与え、目的や場面、状況などに応じた内容になっているかを考えさせ

ることが大切である。また、小学校では学んでいる言語材料が多くないため、クラスメイトと似たような語彙や表現を選択することが多いが、中学校では、これまでに学

んだ多くの言語材料の中から、生徒が自ら聞き手や読み手に合わせて語彙や文法事項を選択するような言語面の工夫ができるように支援することも考えられるだろう。



### 生徒が設定に応じやすくするポイント

目的や場面、状況などを設定する際に、生徒が設定に応じて内容や表現を考えやすくするためのポイントを2つ紹介する。

#### ■受け手の情報を提供する

ALTの両親が宮崎に来ることになりました。喜んでもらえるような宮崎の旅行プランを提案しよう。

このタスクに、以下の追加の情報を提示してみてもどうだろうか。

- ・70歳の両親はこれが初めての来日。
- ・旅行では食事を楽しみにしている。
- ・日本の歴史が好きである。



70歳という両親の年齢を考慮して、階段の多い神社から車で行ける古墳を訪れるプランに変更したり、初来日なので日本らしい文化的な体験も組み入れたりすると、「ゲストに喜んでもらう」という目的意識が醸成されるかもしれない。また、発表の際には両親の情報に照らして、なぜその場所や活動を選んだかを述べることも可能である。このように、聞き手が知らない人物の場合は、人物像が想像しやすくなるように相手の情報を提供するとよい。

#### ■自分自身として演じられるようにする

目的や場面、状況などを設定したやり取りの言語活動としてロールプレイがある。与えられた場面で自分はどのような立場か、

相手との関係性はどうかなど、現実のコミュニケーションの場面を想定しながら即興的な言語使用ができることが魅力である。ただし、自分の役割が医者や宇宙飛行士など、これまでの人生で経験したことのない役割（あるいは多くの生徒が今後も経験することがない役割）の場合、何を言えばよいかを自分の経験に照らして考えることが難しくなり、やり取りの現実味が乏しくなってしまうかもしれない。生徒が等身大の自分で考えられる目的や場面、状況などを設定したり、コミュニケーションの受け手の人物像を想像しやすくなるような情報を提供したりして、現実味のあるコミュニケーションを体験させたい。



### 教科書を活用して、無理なく目的や場面、状況などを設定する

普段の授業で無理なく目的や場面、状況などを設定するには、教科書の活動を活用するとよいだろう。

#### ■USE Read

例えば、リテリングは「内容の理解を確認し、言語材料を定着させるための学習活動」として使用されることが多いが、この活動に「この話をまだ読んでいないALTに概要を伝え、自分の感想を一言伝えよう。」といった設定を加えると、意味内容を重視した相手意識の伴う言語活動へと変わる。NEW CROWNのUSE Readはある程度分量があるため、その文章を読んだことがない相手に概要や要点を伝えるときは、内容を整理し、情報を取捨選択する必要がある。教科書のタスクで読み取ったことや、

タスクで使用されている絵やキーワード、表などを再利用することができるため、生徒は活動に取り組みやすい。また、生徒が主体的に本文を読み返すことも期待でき、「読むこと」の活動のあとに設定するには最適である。

#### ■Take Action! Listen

「聞くこと」の活動であるTake Action! Listenでも、設定を追加することが可能である。1年 Listen 3では、STAGE 2で2つの映画の予告編を聞いてあらすじを捉え、STAGE 3でどちらの映画を見たいかを述べる。その際に、「あなたは友達と映画を見ることになりました。どちらの映画を見るか友達と話し合い、決定しましょう。」といった場面・状況を加えると、相手を説得

するための理由を考えるなど、自分事として言語活動に取り組むことができるかもしれない。あるいは、2年 Listen 1では、STAGE 2で図書館の案内を聞いて、本を借りるために必要な情報をメモにまとめたあと、STAGE 3で図書館の利用方法を整理するが、「その図書館を初めて利用する人に教える」という設定を加えると、聞き取りや発話の目的がより明確になる。

単元末や学期末の「話すこと」や「書くこと」の言語活動に生徒が応じやすい目的や場面、状況などを設定しようと思うと内容が大がかりになり、授業準備にも時間がかかる。まずは、「読むこと」や「聞くこと」の言語活動を発展させると、毎回の授業の延長で無理なく取り組めるのではないだろうか。

# 目の前の生徒に合わせて 「目的」を考える



宮崎 直哉  
(静岡県公立中学校教員)



## 授業に深みを出すには

言葉を使用する目的・場面・状況を意識して授業中の言語活動を仕組むことは、生徒自身が伝えたい内容を考え、表現するという点において有効である。伝えたい目的があり、その場面や状況が意識されていれば、生徒は既存の知識を基に表現方法を考えたり、周囲の友人が表現した英語から気づきを得て、自分になかった表現を学び、取り入れたりして相手に届けようとするだろう。これらは単純なドリル練習だけでは難しい部分でもある。それでは、目的や場面、状況などを英語の授業でどのように

考えていけばよいのだろう。

私が参観した英語の授業の中では「場面」や「状況」が丁寧に設定されており、細かな状況設定の中で生徒が意欲的に英語でやり取りしようとしている様子が見られた。しかし、やり取りは活発に行われていたものの、生徒自身が本来は何を伝えようとしていたのか、肝心の発話の目的がわからなくなってしまっていることがあった。

生徒が実際に英語を用いて活動する場面や状況を考えることは、教師の工夫が活かされる部分であり、とても楽しいもので

ある。言葉が使用される場面や状況は無数にあり、工夫の余地がいくらでも生まれる。しかし、目的を意識しないと、本来の「伝えたいこと」や「やり取りによって築きたいもの」が置き忘れられ、その場面特有の表現やセツフレーズの練習などようになってしまうこともある。深みのある言語活動を行うには、**場面や状況などの外枠を固めるのではなく、何のためにどのようなメッセージを伝え合うのか、その「目的」を意識することが重要だと考える。**



## 「目的」を中心に、「場面・状況」をアクセントに

「目的」を定めると伝えるべきことが明確になり、それが活動の軸となる。例えば、自己紹介や自分の好きなことを伝えるという活動を計画したとする。この場合には、「自分自身について伝えること」が目的なので、自分に関わる事実や、好きなことや物に関するエピソードや理由などを伝えられるかという点が重要になる。

目的が定まったら、**場面や状況は活動の難易度を調整する変数として使用することができる。**「場面」が加わると、クラス全体

の前でスピーチするのか、4人組くらいの談話なのか、オンラインでの対話なのかなど、その設定によって活動の難易度が変わる。さらに、「状況」として初対面の相手なのか、すでにある程度人間関係ができている間柄なのかによっても、発話の内容や構成、表現の仕方を工夫する必要がある。また、聞き手にうまく伝わらない状況を想定し、聞き手が質問する活動を組み込めば、話し手が説明を繰り返したり言い換えたりするような対応が必要になるだろう。

同じ活動を複数回行う場合には、目的はそのままで場面や状況を変更することで、徐々に難易度を上げることもできる。もちろん、これは話す・書くだけでなく、読む・聞く活動においても共通する。

なお、評価についても「目的」に対して行うべきであると考えている。その上で、設定した場面や状況に応じて言語使用できていれば評価に反映する。その際には、積極的にチャレンジした生徒が損をしなくて済むように加算方式にするとよい。



## 「目的」を考える上で大切なこと

授業を考える際には生徒の興味・関心などをつかむ必要があるが、私は目的を定める場面においてこそ**生徒理解が必要だと考えている。**現在の生徒の姿を出発点として、英語の学習を通して生徒にどのような考えをもってほしいのか、物事や周りの人に対してどのような感じ方をしてほしいのか、それらの生徒の姿のイメージを教師がもつ必要がある。

例えば、NEW CROWN 2年 Lesson 2

の“My Dream”には、登場人物が自分のやりたい仕事について意見を述べる読み物がある。意見文の概要が理解できればよいのか、細かい根拠まで含めた理解を目指すのか、読んだあとに生徒自身が感じたことを表現させ、さらにそれをやり取りさせるところまで発展させるのか、読み物教材一つ取り上げても読む目的はさまざま。現在の生徒の姿から育てたい生徒の姿まで考え、そこに至る「学ぶ目的」をもつこ

とで、目の前の生徒に合った目的を設定することが大切である。

言葉を通したやり取りには、話された言葉であれ、書かれた言葉であれ「目的」がある。その目的を設定し、共有することで、意味のあるメッセージが飛び交い、心が通い合うような授業に変わるはずである。まずは目の前の生徒の姿を出発点にした「英語授業の目的」から考えて授業を設計してみてもどうだろうか。



# 英語を生徒にとって身近なものにするための目的や場面、状況



伊藤 光芳  
(越谷市立平方中学校)



## 英語を使う必然性を感じさせる

英語が得意または好きな生徒ばかりであれば意欲的に英語の授業に取り組むことができるが、現状はそうではない。生徒の中には「英語なんて使わないし…」 「海外へは行かないし…」と英語自体に興味・関心がなく、英語を学ぶ必要性を見いだせないこともある。そんな生徒たちを見てきて気がついたことは、目的や場面、状況をうまく設定することで、英語を生徒にとって身近なものにさせることが大切なのではないかということである。日本国内で生活していても英語を使う場面や状況があるということを実感させることで、英語を学ぶ必要性に気づかせることができるのではないだろうか。

### ① 相手をALTに設定する

生徒に身近な場面や状況を作る方法の1つは、コミュニケーションの相手をALTに設定することである。特別新しいアイデアではないが、最も手軽にリアルな目的や場面、状況を設定できる方法であることは間違いない。ALTは生徒にとって1番身近にいる外国人である。そのため、ALTであれば、性格や好きな物、日本についてどのく

らい知っているのかなど、相手の細かい情報を生徒も把握しており、コミュニケーション活動を行う際の話設定がしやすくなる。

例えば、「日本のことについて紹介しよう」という活動があるとする。「日本のこと」という話題がかなり広く、紹介するテーマの絞り込みだけでも考え込んでしまう生徒がいる。これに「ALTの先生に日本のことについて紹介しよう」と加えるだけで、コミュニケーションの相手が明確になる。これにより、ALTが日本についてまだ詳しくなければ大衆的な内容にしたり、日本についてある程度知っているようであれば少しマニアックな内容にしたりするなど、生徒が思考を働かせながら、相手に合わせて紹介することを選ぶようになる。また、実際に目の前に英語で話さなければならない相手がいると、英語を使うことの現実味が湧いてくる。さらにそのような場面で自分の英語が伝われば、自信や成功体験につながっていくだろう。

### ② 言語材料を使う場面・状況を伝える

レッスンなどのターゲット文法が、具体

的にどのような身近な場面で使えるものなのかを伝えることも生徒に身近な場面・状況を想像させるには有効である。

例えば、2年生の教科書では不定詞の名詞用法が登場するが、これを導入する際、「この表現は自己紹介でより具体的に好きなものについて言うことができる」ということを補足する。I like baseball.だと野球の何が好きなのかまでは伝えきれないが、I like to play baseball.とすれば競技をすることが好きだと具体的に伝えることができる。

実際に外国へ行ったときの使用場面を伝えることで、学習していることが役に立つものだと思ってもらえることもある。NEW CROWNでは、“May I...?”を使ったスキットの場面設定が洋服店であるが、これ以外にもレストランなどで食べ物を注文する際も“May (Can) I have ...?”と言うということを教えている。ネイティブスピーカーも中学校で習うレベルの表現を使うということがわかることで、生徒たちの英語を使うハードルが下がっているように感じる。



## 目の前の生徒に合わせた設定を考える

決して教科書などの言語活動を否定するわけではないが、生徒にとって現実的ではないと感じる設定のときがある。例えば、「あなたの家に留学生の〇〇がホームステイをすることになりました。日本生活の決まりなどを教えよう」という活動があったとして、ホームステイを受け入れる可能性のある生徒がどのくらいいるのだろうか。このような活動であれば、「ALTの先生に学校の決まりについて伝えよう」など、伝える相手と内容を目の前の生徒に合わせてマイナーチェンジすることで、生徒にとって

リアリティが増した活動に変えることができる。

また、比較級や最上級の単元で、「クラス内でのアンケート調査をもとにプレゼンテーションしよう」といった活動がよくある。これも、「クラスメイトの間で人気のある〇〇についてALTの先生に紹介しよう」と相手を明確に設定したり、「ALTの先生が日本の流行について知りたがっている」と目的を加えたりすることで、生徒も活動の意義がわかるだろう。

私なりに「目的・場面・状況」を整理

すると、「目的」はコミュニケーションを図る相手を明確にし、相手意識を持って英語を使うために必要で、「場面・状況」は表現などを実際に使う場面を生徒に実感させるために必要である。このことを踏まえて、伝える相手や目的を生徒にとって身近なものに設定して授業を展開することで、生徒に英語を学ぶ必要性を見いださせるだけでなく、話題を考える力を鍛えることもできる。そしてそれが、主体的に学習に取り組むことにもつながるのではないだろうか。

岡山大学教育学部附属中学校

**ボンド 良子先生**



本時の授業

BOOK 3 Lesson 6  
9時間目  
(USE Read)



### ◆授業を考えたときに大切にしていること

根っから「楽しいこと」が大好きなので、学力差が生じやすい一斉授業において、どうすれば楽しく50分の授業×数時間の単元を構成できるか、またそのような単元構成を3年間維持できるかを考えて、教材研究に励んでいます。しかし、これまで多くの先輩方の授業を見様見真似に言語活動に取り組んでいましたが、先輩方の背中はずいぶん遠く、自己満足の授業に陥っていたかと、反省・後悔することがたくさんあります。そんな時、現任校に赴任し、岡山大学大学院教育学研究科の高塚成信先生に教を乞うようになり、「楽しさの中に、言語としての学びが成立するように」という指導観の指針となる助言を受け、それぞれの授業において目標とすべき言語の学びを明確にした授業を展開できるよう、日々努力しているところです。

## 授業紹介

授業  
開始

Warm-up & Review

前時に読み取ったことを確認しよう。

### ①「新しいアイデアで社会に変化をもたらす」をキーワードに、Warm-up活動に取り組む。(常学習/5分)

英語の歌: "Virtual Insanity" by Jamiroquai

※毎時間、授業の冒頭に洋楽を歌っている。(1単元1曲のペース) 生徒からのリクエストで曲を選んでおり、今回は「現代社会に警笛を鳴らす」というコンセプトのこの曲を選んだ。

チャンツ: 附属中オリジナルSDGsチャンツ

※よりよい社会の実現に向けて掲げられているSDGsをテーマに自作したオリジナルチャンツに取り組みました。本単元のターゲット文法である「仮定法過去」を散りばめ、楽しく英語のリズムやリンクを習得できるようにした。オリジナルチャンツは生徒との共同制作を含め、これまで11本制作した。なお、現在使用しているメロディはNHK出版のものだが、今後、音楽科と教科横断の視点で連携し、完全オリジナル作品の制作に励みたい。

### ②「陸が卒業メッセージとして伝えたいこと」を根拠とともに思い出す。(学級/5分)

教科書p. 94に特化し、教師が発する事実発問に英語で答える。

(例) Q. What message will Riku leave for his classmates?

A. Have the courage to imagine. / Have the courage to act in your lives.

Q. What did he learn from the inventors?

A. He learned that using imagination is the key to starting off from Leonardo da Vinci.



Think

3組の偉人の功績を英語でどう表現できるか考えよう。

### ① デジタル教科書の資料映像を視聴し、ライト兄弟の初飛行に関する補足情報を得る。(学級/5分)

(例) The Wright Brothers had a bicycle shop, but their dream was to fly. Most people said flying was impossible for humans, but they never gave up.

### ② 「新しいアイデアで社会に変化をもたらす」をキーワードに、道徳の授業で学習した「安藤百福(日清食品の創業者)」と「Steve Jobs (Apple の共同創業者)」を取り上げ、彼らの功績を英語でどう表現できるか考える。(個人→ペア/7分)

【生徒から出た意見】※下線部は教科書pp.92-94の表現を上手に使っているところ

(例) -Ando Momofuku is the first person to make Cup Noodles. He tried his ideas over and over again. As soon as he noticed a problem, he looked for a solution.

-Steve Jobs created many Apple products such as iPhones and iPads. He is a great inventor.

【教師が追加した情報】※下線部は日本語の意味を示したところ

(例) -When Ando Momofuku was 47, he lost his job because of bankruptcy. But he quickly launched a new business.

-When Steve Jobs was a student, he made a "blue box" with his friend. It was a telephone-like machine that we could talk with on a network for free.

Think

## ◆本時のポイント

「読んだことに基づいて話す／書く」といった領域横断型の活動に継続的に取り組み、相手を変えながら同じ内容を複数回アウトプットする場を設けることで、他者意識をもって自分の考えや思いを発信することができるよう、3年間指導してきました。しかし、社会的な話題になればなるほど、目的・場面・状況に応じて英文から必要な情報を読み取って整理することが難しく、発信に躊躇してしまう傾向がありました。そこで、新しいアイデアで社会に変化をもたらした偉人の一例として紹介されているライト兄弟に関連付けて、3年時の道徳科で学習した安藤百福、また生徒の興味関心が高いSteve Jobsを思い起こさせることで、教科書本文の表現が汎用的に使用できることを実感させ、社会的な話題であっても自分事として自信をもって英語を話す／書くというゴールに向かえるように、授業を構成しました。

## Lesson 6 指導計画

「タイムマシンがあったら、誰を訪ねるか」というお題に対して、事実や、選んだ人物とその理由などを整理し、スピーチの型を意識しながら発表することを目指す。

### ● GET (6時間)

言語材料(仮定法過去)の使用場面、形式、意味を理解し、活用する。

### ● USE Read (3時間)

▶1・2時間目 USE Readの内容理解

GETで理解し定着した知識を活用して、本文の内容を理解する。

▶3時間目 USE Readから発展した自己表現活動(本時)

新しいアイデアで社会に変化をもたらした偉人たちの功績を整理したあと、タイムマシンがあったらどの偉人を訪ねるか、事実や理由に触れながら自分の考えを発表する。

### ● まとめ (3時間)

▶仮定法過去の用法を整理する。

▶タイムマシンを使って自分が本当に会ってみたい人について紹介する記事をChromebookで作成し、卒業文集に掲載できるようにする。

## Speech

## “If I had a time machine, who would I visit?” というタイトルで、自分の意見を英語で発表しよう。

### ① 教師の後に続いて、センスグループを繰り返し発声し、3組の偉人の功績とそこに至るまでの姿勢を英語で表現する。(学級／5分)

※教師はスライドを用いながら、必要な語句のみ提示し、脳内で文が復元できるようにする。また、その際、教師が発声したこと (input) をすぐに復唱させず、3秒間のインターバルを挟み (intake)、自分の力でリプロダクション (output) できるように支援した。



### ② スピーチの構成 (Opening → Body → Closing) を再確認し、キーワードをもとに発表できるよう練習をする。(個人／3分)

### ③ 同じ偉人を選んだ人同士のグループを作り、アイデアを共有する場を設ける。(グループ／5分)

### ④ 生活班のグループで順番に発表し合う。その後、双方向的なコミュニケーションとなるよう、賞賛や質疑応答などを通して、他者意識をもってスピーチする。(グループ／10分)



### ⑤ 代表者が学級に向けてスピーチをする。(学級／3分)

### ⑥ 次の活動 (“If I had a time machine, who would I visit?” のWHOを、本当に会ってみたい人物(歴史上の人物、亡くなった親族など)に置き換えて、もう一度スピーチ活動に取り組む)に向けて、本時に発表したことをワークシートに書き記しておく。(個人／2分)

※ここで発表したスピーチをもとに、卒業文集に掲載する記事を作成する。

【生徒作品例】※文法等の誤りは未修正

If I had a time machine, I would visit Steve Jobs. There are two reasons that support my idea. First, I would ask him why he always wears same clothes every day. I'm interested in his consistently idea which is needed these day, I think. Second, I would make announce him that he will have serious cancer so that I want him to make apple products forever! Thank you for listening.



## Speech

## 授業終了

### ■ 授業を終えて

学習指導要領の改訂に伴い、言語材料に「仮定法過去」が新しく追加されました。中学2年生で習う「直説法の条件文」との違いを理解できるよう、最初に着目したのが本校の運営母体である岡山大学が先進的に推進しているSDGsでした。私自身、女性管理職のもとで働いた経験が一度しかなく「女性が活躍できる社会になるといいな」という願望の反対側には「実際はまだまだそうじゃない」という現実があります。このSDGsの目標は、現実社会の在り様に対する「…だったらいいな」

という仮定や願望でもあり、ライト兄弟の飛行機、安藤百福のカップラーメン、そしてSteve Jobsが開発したApple製品に通ずるところがあります。そして、偉大な発明家には「絶え間ない努力を続ける中で、仕事を楽しんでいる」という共通点もあります。私自身、またこれから一步一步、新しい教材開発に向けて歩みを止めない姿を貫くことで、これまでお世話になった先生方、そして生徒に恩返しできるようにしたいです。



# テストの結果を活用する方法

根岸 雅史 Negishi Masashi (東京外国語大学)

## ① 観点・領域を深掘りする

世の中には様々なテストがありますが、ここでは教師自身が作成する定期試験について考えます。教師のみなさんに「定期試験の結果を活用していますか」と尋ねれば、答えはもちろん「イエス」でしょう。なんといいっても、これで成績をつけているのですから。「観点別評価」のためには、観点ごとに整理して利用していることでしょう。

しかし、観点はさらに深掘りすることができます。例えば、「知識・技能」を測る問題といっても、これはさらに「知識」と「技能」に分けられます。ある言語材料を、単なる「知識」として持っているのか、「技能」として持っているのかでは、まったく違うでしょう。定期試験の結果を成績をつけることだけに使うのではもったいないです。

「技能」に関して、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語』では、評価規準を作成する際のポイントについて、「使用する言語材料の提示がない状況においても、それらを用いて事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付けているか否かについてを評価する」とあります。「使用する言語材料の提示」があればその言語材料が使えるのか、「使用する言語材料の提示」がなくても使えるのかでは大違いです。「使用する言語材料の提示」

がなければ、いつ何を使うかを生徒自身が自分で判断しなければなりません。

「思考・判断・表現」のポイントについて、前述の『参考資料』では、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」に応じた言語活動を行えるかどうかとされています。言語的に正しくても、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況」に合っていないければ、コミュニケーションはうまくいかないのですから、この確認は大切です。

また、5領域での分析も重要です。観点ごとの評価が済んでしまうと、意外と領域ごとの結果の解釈を行っていない可能性もあります。特に、「話すこと」は「やり取り」と「発表」から成るので、どちらの評価を行ったのか意識しておく必要があります。

## ② テスト結果を整理する

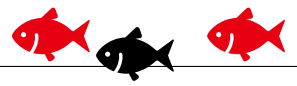
教師がテストの結果を活用するには、前提として、定期試験が後の解釈が可能で、きれいな構成になっている必要があります。「きれいな構成」とは、大問単位で何を測っているのかが明らかな構成です。当然、様々な知識をばらばらに測っている「総合問題」のような問題では、小問レベルに遡らない限り大問の結果の解釈は不可能です。また、採点の際に紙の上だけで合計点を出してしまえば、テストの返却とともに大問ごとの情報はなくなってしまいますから、大問

ごとの得点をエクセルなどの表計算ソフトに入力しておくといいでしょ。

## ③ テスト結果をどう活かす

それでは、わかったことをどう活かせばいいのでしょうか。まず考えられるのは指導です。クラスごとに大問の出来を見れば、どの指導がうまくいっていて、どこがうまくいってなかったのかを知ることができます。そして、うまくいかなかった事柄について指導し直したり、指導の力点を変えたりすることができます。さらに、その出来の悪かった問題は、後日再度出題してみるといいでしょう。事後指導により改善しているか、手軽に知ることができます。

また、生徒個人に目を向ければ、一人一人の生徒の目標達成の成否を観点ごとに見ることができます。大問ごとの得点をレーダーチャートにすれば、生徒自身も自分の強みや弱点などを一目で理解できます（これはCEFR Companion Volumeではprofilingと呼んでいます）。また、これを毎回積み重ねることで変化も見て取ることができます。教師としては、クラスの全体的な傾向とは別に生徒個人の問題点に気がつけば、それを克服するための手立てを講ずるアドバイスを個別にすることもできます。



Lucinda Okuyama (Tokyo University of Foreign Studies)

My background in psychology and my experiences as an English lecturer in Japan have given me some insight into the challenges that Japanese students face in the English classroom.

The classroom is a unique social situation where the teacher has the power to put students in embarrassing social situations. In this type of environment, students can feel afraid that they would be looked down upon by their peers. This is a type of social threat that can cause students to react in three different ways, fight, flight, or freeze.<sup>(1)</sup> For example, if we faced a physical threat like a bear attack, we would either fight the bear (fight), run away from it (flight), or be so scared that we can't do anything but just stand there (freeze). Just like that our bodies would react to protect us from social and emotional threats as well.<sup>(1)</sup> However, it can be difficult to deal with these physical responses in the classroom.

Some researchers discovered a new coping method called 'Tend-and-befriend'. It can help students deal with social threats. They believe that students should form strong social bonds and support one another so that they

can take on what looks like a threat together as a team.<sup>(1)</sup>

This famous story by Leo Lionni about a brave little fish shows how the Tend-and-befriend strategy works. This is how the story goes: "Swimmy is a little black fish, born a different color than the rest of his school of small red fish. One day Swimmy's school is eaten by a large tuna fish. Scared and sad, Swimmy travels alone ... until he finds a school of red fish like his own. The red fish are too afraid of being eaten to go exploring with Swimmy, until Swimmy suggests that they all swim close together to look like one big fish, with Swimmy as the eye."<sup>(2)</sup>

Social support can help students to overcome anxiety. So it is useful to teach students to connect and bond with their classmates for support. When they work together, they protect one another, they can feel safe and learn from each other. This is the type of learning environment in which students can succeed.

(1) Wilson, P. A. (2016). Shame and collaborative learning in second language classes. *Koniniskie Studia Językowe*, 4(3), 235-252.

(2) Philosophy Learning and Teaching Organization (n.d.). *Plot Summary: Swimmy*. PLATO. <https://www.plato-philosophy.org/questionslibrary/swimmy/>



## リクツで納得! 学校英文法の「文法」 亘理 陽一 (中京大学)

### 見えぬけれどもzero冠詞があるんだよ



前回取り上げた冠詞について、すべての名詞句がaかtheのいずれかを選ぶだけであれば事はそれほど難しくないが、事実はそうではない。

Journeyの"Don't Stop Believin'"の歌詞を見てみよう。ぜひ聴きながら(可能なら歌いながら)読んでほしい。物語のように始まる歌詞は、具体的な登場人物として'a lonely world'に暮らす'a small town girl'とSouth Detroitに生まれ育った'a city boy'を導入する。当然、聞き手にとって誰かは分からないし特定する必要もないが、同じような人や場所が様々にあって、その内の一つという具体性が、情景を思い浮かべるためにも重要だ。彼女らはどこかに向かう'the midnight train'に乗り込む。聞き手は、彼女らが深夜それぞれの土地に停車した列車に乗ったことを理解する(夜行列車がピンと来ない地域や世代の方は映画『魔女の宅急便』の冒頭を思い浮かべるといいだろう)。

歌詞は突如'strangers...'と続く。その夜を求める彼らの影が'the boulevard'を行き交って待っているのに、ここにはaもtheも付いていない。続く'streelights people'も、街灯の下の感動を求めてその夜のどこかに潜む人々をtheで特定してよさそうなのだ。これは一体どういうことだろうか。

実際、この連載でこれまで取り上げてきた例文

にも、あるいは1年生の教科書や小学校外国語の教科書にすら、aもtheも持たない名詞句はすぐに見つかる。aやtheについて学んだ学習者の多くはむしろ、冠詞をつけないのはどういふ場合かも気になっているのではないだろうか。

名詞と名詞句の細かい議論には今は踏み込まないことにして、多くの人は、aとtheについて「名詞(句)の前に置く」というイメージを持っていると思われる。このことを模式的に[□[○○]]と表すことにすれば、□の位置に入るのは実はaとtheだけではない。例えば[some [birds]], [these [words]], [every [street]], [my [face]]といった具合である。このsome, these, every, myは、a/theで置き換えることはできても、それを残したまま前後にa/theを置くことはできない。□に入るのはどれか1つで、だからこれらは□のメンバーなのである。そして□のメンバーは、専門的に言えば「定性(definiteness)」を示す役割を担っている。それは、○○が指し示すものの範囲を限定する(あるいは、しない)ことである。冠詞はいわばその表示に特化したアイテムだ。英語学習者にとって冠詞は鬼門であると言われ、実際そうなのだが、実のところ鍵を握っているのはこの「定性」についての理解(の深さ)ではないかと思う。

□の部分が常になんらかの語で埋まっていると

は限らない。第9回(TEN 48)で取り上げたように、可算用法の名詞が単数形の場合はaが必須となる([□[○○])の□の部分に空にして'small town girl'とは言えない)が、複数形や不可算用法の名詞の場合、□は空であり得る。「zero冠詞」と呼ばれるこの用法が、"Don't Stop Believin'"の[∅[strangers]]であり[∅[streetlights people]]である。zero冠詞は、指し示す範囲を限定せず、不定のまま複数または不可算の○○に言及する(弱く発音されるsomeも同様の役割を果たす。なお、NEW CROWN 1では"I like animals very much." (p. 20)の[∅[animals]]について、「種類全体を表す」と説明されているが、zero冠詞の名詞句が常にいわゆる「総称用法」になるわけではない)。

この曲で描かれているのは、'a small town girl'や'a city boy'が飲み込まれていく都会の群像であって、見知らぬ者同士、あちこちの街灯の下にいる不特定の人々であることにむしろ意味がある。途中、夜の街の部屋の様子も描かれるが、ここでの[∅[wine and cheap perfume]]もzero冠詞だ。部屋に立ち込める匂いは具体的だが、ワインや安物の香水という概念を伝えることが重要なのであって、その範囲を限定する必要はない。

さあ、□に注目しながら2番も聴いてみよう。



## Question



授業でタブレットを効果的に活用する方法はありますか？



津久井 貴之 (群馬大学)

## Answer

目的に合わせて適切なツールを選ぶことで、生徒の実態を効率よく把握したり、活動のモデルを効果的に提示したり、生徒一人ひとりの振り返りや練習に活用したりすることができます。

タブレットは学習支援ツールの1つに過ぎませんが、適切に活用すれば、授業の質を高め、個別最適な学びを実現させる上で強力なツールとなります。今回は特別なソフトではなく基本的な機能を使った端末の活用方法を紹介します。

### ① 実態把握を効率よく行う

タブレット端末による課題や振り返りの提出、投票機能のついたアプリなどの活用は、生徒の実態把握に基づく授業づくりや授業改善に大変有効です。特に、題材に関する興味・関心や既習の語彙・文法などの実態把握は、紙でのアンケート調査に比べて圧倒的に効率がよく、自動集計結果や生徒の個別データをすぐに一覧することができます。教師の観察と感覚が頼りだった「生徒の実態把握」の精度が上がることで、目の前の生徒たちに合わせた指導目標や単元計画、言語活動のデザインが可能になります。なお、Google Formsなどのアンケート機能は無料で使用可能です。

### ② 活動のモデルを効果的に示す

活動のモデルを生徒たちの目の前で実演することに加え、事前録画して生徒たちと共有すれば、生徒たちは常にモデルを意識しながら課題意識を持って活動や学習に取り

組むことが可能になります。事前録画モデルは、指導者側にとっても「ベストパフォーマンス」を提示できるというメリットがあります。この単元は生徒たちの興味・関心が高い、やってみたいと回答している、など先述の実態把握を基に、ここぞという単元では言語活動のモデルをオンデマンドでも配信してみてもどうでしょうか。

### ③ 発話録音(録画)を自己評価に使う

録画機能を使ってやり取りや発表の様子を録画させてみましょう。自分の英語をセルフモニタリングすることで、自ら新たな課題を把握して練習したり、言語活動に再挑戦したりすることが可能になります。その際「あまりうまく言えなかった」というような感覚的な振り返りにならないよう、あらかじめ評価の観点を示しておくことが大切です。

### ④ 「使いたい」表現の個別練習に使う

先日、小学校の授業で「自分の学校のよところを留学生に伝える」という活動の練習を拝見しました。林間学校で互いに助け合うことのよさを伝えたいと思ったある児童は、「help each other」という表現を48回(!)個人練習していました。ペアワークで活動するたびに「We can help え〜と… other. またアザーの前が出てこない!」と、

友だちに答え(each)を聞いたり、タブレットで音声を確認したりして口頭練習をしていました。その児童なりに一生懸命練習し、伝えられるようになったと自信が出てきたのでしょう。「最後にもう1人、みんなの前でやってくれる人!」という先生の掛け声に元気よく手を上げた姿や、タブレットに授業の振り返りを記入中も“Help each other, help each other!”と頭を揺らしながらリズムを取って練習していた姿が印象的でした。

子どもたち一人ひとりが、相手に思いを伝えるために自分で選択した表現を、納得するまでタブレットを活用して夢中になって練習する。表現の幅が広がり、考えが深まっていく中学校でも、こうした個別の学びの機会が必要です。

タブレット端末には弱点もあります。教科書紙面と同様の見やすさや一覧性はありません。また、紙での学習を好む生徒もいるでしょう。授業や活動のねらいに照らしてより効果的なツールの選択を示しつつ、徐々に生徒自身にツールの選択を委ねられるように支援していきましょう。

三省堂のウェブサイト「ICT実践事例紹介」では、全国各地の先生方のアイデアがたくさん紹介されています。



## 教育Webコラムのお知らせ

三省堂教科書・教材サイトでは、小学校・中学校・高等学校の先生方へ向けた

英語・国語のWebコラムを掲載しています。

最新の教育情報や学校の「今」、これからの教育が目指す方向性など、

多彩なテーマを取り上げていますので、ぜひ一度ご覧ください。

### 中学校・英語のコラム紹介



#### 内容について

大島希巳江先生の連載コラム。  
英語落語を通じて見えたグローバル英語のあり方を探ります。

#### これまで扱ったテーマ

- No.15 日本語にはない英語表現
- No.19 笑いとユーモアの根底にあるもの



#### 内容について

英語教育界ホープの工藤洋路先生・津久井貴之先生が、  
コーヒー片手に「ゆるっと対談」しています。  
トレンドキーワードへの見解を、理論から実践まで幅広く語ります。

#### これまで扱ったテーマ

- No.31 AI翻訳ツール時代における英作文指導の在り方
- No.34 令和にあるいろいろな辞書を考察



#### 内容について

ICTを活用した授業や学校の取り組み、児童・生徒1人1台  
端末の活用、そしてデジタル教科書・教材等を活用した実践  
事例を紹介します。



#### 内容について

全国の授業の様子や学校の取り組み、指導法などを紹介し  
ます。

アクセスは  
こちらから



三省堂 コラム 検索

<https://tb.sanseido-publ.co.jp/column/>



# NEW CROWN

## SSD 三省堂

# UPトークtime

## SEIHA since 1985

無料体験は  
コチラから



### 教科書と連携したオンライン英会話授業で、教室から世界へ

「SEIHA UPトーク time」NEW CROWN 版は、令和3年度版『NEW CROWN』と連携したオンライン英会話です。フィリピン・セブ島の外国人講師と、直接オンラインで会話することができます。



- 【知識・技能】の定着、【思考力・判断力・表現力】の育成に  
各レッスンの指導事項をふまえ、教科書の進行に沿って実施できるから、教科書の学びの定着や活用につながります。発話量を飛躍的に増やすことで、学習事項の定着と深化を両立します。
- 教室から世界へ——英語学習の目的意識を喚起  
自分の話す英語が通じる達成感を味わうことで、コミュニケーションへの不安を軽減します。リアルタイムでの異文化体験もできるから、教室に「英語を話す必然」をご提供します。

価格、サービスの詳細は下記の弊社連絡先、  
またはお近くの弊社担当者までお問い合わせください。

## 教科書連携のオンライン英会話サービス 教室から、 世界中の講師とつながる。

教科書連携プログラム  
スパトレオリジナル

導入校拡大中!

SPTR  
FOR SCHOOL EDUCATION



### 教科書に対応

レベルの高い講師陣による、  
個別最適化されたレッスンを、教科書に  
沿った内容で受講できます。



### 先生方のご負担軽減

予約は7日前まで。  
簡単に授業導入可能。授業後、  
5段階評価を付与します。



### 4技能5領域をバランスよく習得

ただ話す体験にとどまらず、  
「読む」「書く」「聞く」「話す(やりとり)」、  
「話す(発表)」をバランスよく  
鍛えることができます。



### 自信がつく

楽しみながら、英語を使った  
コミュニケーションをとる自信をつける  
ことができます。



SP スパトレ株式会社  
TR <https://school.sptr.jp/>

価格、サービスの詳細は下記の弊社連絡先、  
またはお近くの弊社担当者までお問い合わせください。

三省堂 教科書・教材サイト

<https://tb.sanseido.co.jp/>

▶▶▶「ICT実践事例紹介」・「授業レポートプラス」公開中!

## 三省堂

〒102-8371 東京都千代田区麹町5-7-2

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。